

両側腎に珊瑚状結石と結核を合併した症例

京都大学医学部泌尿器科学教室

加藤 篤 二

BILATERAL STAGHORN CALCULI ASSOCIATED
WITH RENAL TUBERCULOSIS

Tokuji KATō

From the Department of Urology, Faculty of Medicine, Kyoto University

A 65-year-old woman was admitted because of frequent urination with burning. She had experienced abdominal pain with fever six years prior to admission, and was said to have kidney stone on the right side three years prior to admission. Urological examinations disclosed bilateral staghorn calculi, tuberculosis of both kidneys, acid-fast organisms from both ureteral urine samples and tuberculosis ulcers of the bladder.

はじめに

両側腎に珊瑚状結石と結核を合併した珍しい症例について述べる。

症 例

患者：65才の女子。初診 1943.

主訴：頻尿と排尿痛。

既往症：特記すべきことなく、結核罹患、妊娠の既往はない。

現症：初診の6年前腹痛と発熱をきたし、その後しばしば発作的に同様の症状をくり返した。3年前尿混濁のためレ線検査を受けた結果、右腎に指頭大の結石があるといわれ対症療法を受けたが軽快しなかった。

2カ月前より頻尿が著しく昼間1時間に1回、排尿痛を伴うという。最近はお臍の周辺に疝痛を訴えている。

現症：体格は中等度、栄養減退、貧血あり。胸部に著変なく、腹部で右腎部に著明の抵抗があり、圧痛(+)、腎の下界は臍下2横指におよぶ。左腎はふれず、圧痛あり。膀胱部には圧痛あり、両下肢に浮腫なく、尿は高度に混濁しやや蒼白である。

膀胱鏡所見では粘膜は一般に充血し、後三角部には多数の定型的結核潰瘍を認める。右尿管口はやや拡大し混濁尿の排出があり、左尿管口は位置が右と同位で尿流はほぼ清澄である。青排出は20分までなし。レ線撮影で単純では両側に Fig. 1 のような珊瑚状結石像

が認められ、逆行撮影によると (Fig. 2) 右腎盂では上部下部に潰瘍像が著しく、左腎盂では水腎像に加えて上、下腎杯に崩壊像がみられた。右尿管尿は蛋白(+)、白血球(卅)、赤血球(-)、上皮(-)、結核菌(+)、左尿管尿は蛋白(卅)、白血球(卅)、赤血球(-)、上皮(+), 結核菌(+), 尿培養でも結核菌(+). PSP は1時間5%, 2時間2.5%, 3時間1.25%.

以上のごとく本症例はすでに両腎機能も高度に低下しかつ感染も著しく、栄養もまた悪しきため手術操作を加えることなく対症療法に終始したがその経過は不明であった。

ま と め

本症例は両側腎の巨大な珊瑚状結石で膀胱症状が強いため検査の結果偶然にも結核潰瘍が膀胱に認められ両腎もまたレ線像で結核性崩壊をきたし、結核菌が証明せられた。

腎における結石と結核併発の関係は古くより論ぜられ、偶然の併発のほかに両者間に病因が密接していることは周知のことである。すなわち Wildbolz によると併発の場合結核巢の石灰化、原発結石、続発結石などに分類しており、本邦では斎藤らが原因を5型に分かっている。第1型は結核、結石が同一側にみられるもの、第2型は一侧に結核があり、結石が反対側にあるもの、第3型は両側結核と結石、第4型は両側結核

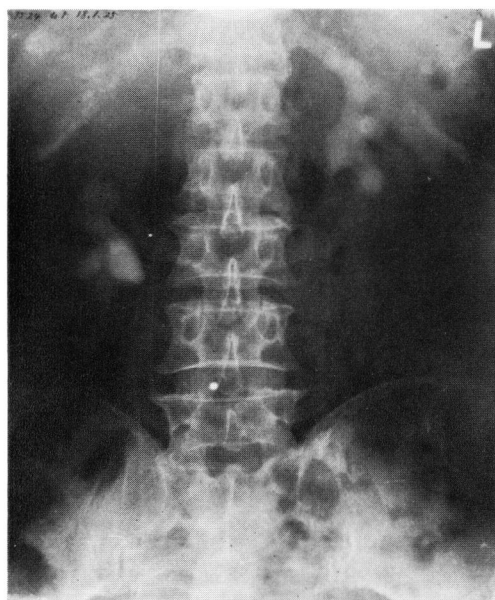


Fig. 1

と単側結石，第5型は両側結石と単側結核であるがこのうち第1型が多数で他は少ないという。京大においては古く占部（1932）の1例，正木・松井（1936）の5例，正木（1938）の1例，徳光・藤田（1938）の1例があり，大森の調査によると結核腎293例中5例に結石が認められ，このうち摘出腎に2例，同側尿管にあるもの2，残存腎にあるもの2となっている。本症例は両側の巨大珊瑚状結石に結核を合併したもので齋藤の第3型に属する珍しい症例であり，すでに6年前

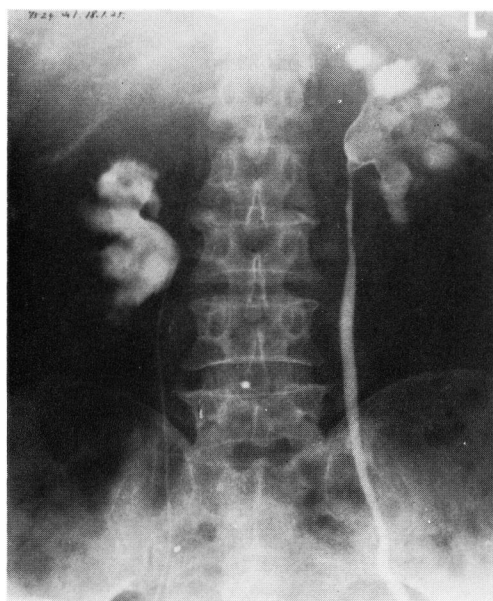


Fig. 2

より結石症状があった点結石が原発で結核が続発と想像せられる。

主 要 文 献

- 1) 大森：泌尿紀要，5：293，491，1959.
- 2) 三国・王置：皮科紀要，50：210，1954.
- 3) 八田：皮科紀要，49：208，1953.
- 4) 齋藤・ほか：日泌尿会誌，29：750，1940.

（1972年3月21日超特別掲載受付）